

〔提言コーナー〕

「九州地区における小児歯科医療の理想と現実」  
—臨床医の立場から—

小児歯科学会九州地方会も、今年で6回目に向えることになりました。昨年まで、九州各地を一巡したことにより、九州における小児歯科医療も徐々に広まってきつつあります。しかし一方では、小児う蝕の減少、歯科医師の過剰、医療費の抑制等、我々を取り巻く環境は、年々厳しくなっています。また、都市部と郡部との医療格差の問題も、依然として解決されていないのが現状です。このような時期に、九州各地区の小児歯科医療の実体を把握し、九州における小児歯科医療のあり方と将来への方向性が少しでも示唆されればと考え、今回の提言コーナーを企画致しました。

発表して頂く先生方は、九州各地において小児歯科専門、小児と一般歯科、総合病院における小児歯科などで、いずれも臨床の第一線で御活躍の方々です。九州といっても各県、各地区で特異性があり、一律に小児歯科医療を論ずることはできません。そこで、それぞれの地区の現状を知ることから、まず始めなければならないと思います。

発表して頂く内容は、小児の口腔内の状況、口腔衛生に対する意識、小児歯科医療の施設状況などです。また、歯科医師会・行政の小児口腔衛生に対する取り組み方なども合せて報告してもらいます。これらの地域の現状を踏まえて、これからの九州における小児歯科のあり方、将来に対する希望・夢および九州地方会に望むことなどを提言して頂く予定です。

今回の提言コーナーでの発表が、これからの九州地区における小児科医療の発展と展開に、おおいに役立つものと確信しております。